

菅茶山顕彰会会報

第 17 号
行 発

菅茶山顕彰会
2007年3月1日



菅茶山詩碑 (佛見山萬念寺山門前・平成18年5月23日除幕)

萬念寺に菅茶山詩碑建立

高橋孝一

平成十八年三月一日、神辺町は福山市に編入合併し、神辺町の歴史と文化遺産は福山市の魅力をさらに高め、新たなスタートを切りました。なかでも、江戸時代の儒者・漢詩人「菅茶山」と国の特別史跡「廉塾」は、わが郷土神辺にとっても新福山市にとっても、誇るべき遺産であります。

昨年五月二十三日、茶山にゆかりのある佛見山萬念寺(神辺町川北)の山門前に、菅茶山詩碑が建立されました。施主は会社役員佐藤優氏、同佐藤秀毅氏、同佐藤卓己氏の三氏で、菅茶山の遺芳の顕彰と、先祖菩提寺である萬念寺に対する報恩感謝の念をこめて建立寄進されたものであります。

詩碑に刻まれている漢詩は、茶山詩の中より、「廉塾」を主題にした次の「夏日雑詩 其ノ三」であります。

垂楊圍繞古書樓

垂楊 圍繞す 古書樓

遮断村聲事亦幽

村声を遮断して事も亦幽なり

知是隣房催會講

知る 是れ隣房 会講を催す

亂條陰裏夜吹簫

亂條陰裏 夜簫 を吹く

(口語意識) しだれ柳が古びた塾舎を取り囲み、村のものをささげり断つて、すべての管みもまた静かである。隣の家では寄合いが行なわれているとみえ、風に乱れる柳の枝のかけのあたりで、夜にあたって笛を吹く音が聞こえてくる。

(「黄葉夕陽村舎詩」後編巻八一十九)

(菅茶山顕彰会会長)